

お陰様で日本ライフ株式会社は設立 41 年を迎えました。皆様に心より感謝申し上げます

さんけん

2015 No.53

平成 27 年 1 月 1 日発行

ネットワークニュース

発行人：三健ネット会 会長 門馬 義芳 日本ライフ株式会社 社長 門馬義幸
三健ネット会事務局 日本ライフ株式会社 〒201-0002 東京都狛江市東野川 1 丁目 3 4 番 1 4 号
TEL:03-3488-8700 FAX:03-3488-9921 <http://www/nihonlife.co.jp/> Eメール:mail@nihonlife.co.jp

三健（さんけん）とは健土・健食・健民

三健ネット会は、人間の幸せは健康にありとの考えから、人みな健康で豊かであることを願い、「健康な土から健康な食物を、それを食して心身ともに健全な国民をつくる」を基本理念にしています。この理念を広く皆様にご提唱し、ご理解とご協力をいただき、普及によって健康と健全な社会、地球にやさしい環境づくりに貢献していきたいと願っております。

日本の将来

三健ネット会事務局 門馬義幸

明けましておめでとうございます

昨年 12 月に行われた衆議院選挙は与党の自民党と公明党の圧勝でした。与党が勝ったというよりは、投票率が 52.66%と戦後最低ということと、1 選挙区から 1 人の当選者しか選べない小選挙区制の結果とも思えます。私見ですが以前の中選挙区制の方が民意を反映するように思えます。

政府は「6 割の企業が賃上げをしている。景気回復面では総雇用所得でみればプラスになっている。」とアピールしています。景気回復を実感している人たちは政府が言うほど多いとは感じられません。そこには 4 割の企業が賃上げをしたくてもできないことや、できない企業の多くが中小・零細企業であること、17 歳以下の子どもの貧困率が 16.3%で過去最悪となったことへの配慮は感じられません。国会議員の平均資産額は 3228 万円とのことですから、裕福な方には現実の厳しさが実感

できないのかもしれませんが。

貧富の格差が年々広がっています。30 代～50 代の貯蓄額を比べると、二極化が進んでいます。「500 万円」以上との回答が約 11%を占める一方で、「10 万円未満」、「貯蓄はなし」が共に 18%、「債務がある」が 6%です。「10 万円未満」と「貯蓄はなし」を合わせると 36%、さらに「債務がある」を加えると 42%にもなります。それこそ病気で長期入院すれば、生活ができなくなってしまいます。急激な円安で、輸入品は値上げをせざるを得なくなり、消費税もアップしたことにより、6 割の家庭が生活が苦しくなったと訴え、ひとり親世帯の貧困率は先進国で最低の水準になりました。日本は消費税（8%）が安いと言います。イギリスは 20%ですからこの数字だけを見れば日本は安いです。しかしながらイギリスでは生活に必要なものには税金はかからないのです。たとえば、食料品、水道水、新聞、雑



誌、書籍、国内旅客輸送、医薬品、居住用建物の建築、障害者用機器等にはゼロ税率で、税金はまったくかかりません。各国の消費税も生活必需品には配慮されていることも多いのです。

消費税の価格転嫁にしても、「まったくできていない」が38.6%で、「100%またはほぼできている」も32.8%しかありません。増税後の売り上げも伸び悩んでいます。商売を続けていくのがとても大変な時代になりました。その中で一番厳しいのは農家ではないでしょうか。政府の方針は大規模経営を推進し、農家の所得を増やすことでした。ところが、主食である米の店頭価格が昨年よりも1～2割も安くなり、ついに40数年前の水準になりました。今年の米農家は、大規模農家ほど、大きな打撃を受けています。農家の高齢化もあり、やめざるを得ない農家が増えます。せっかく子供が後を継ぎたいと言っても、継がせない農家も出てきました。TPP問題も含め、農業の将来が描けないからです。安倍政権は農業問題を含め、今後の4年間で公約を必ず実行してほしいと思います。

バター不足は慢性化？

日本ライフ代表取締役

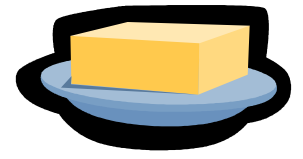
門馬義幸

バターがスーパーの店頭から消えてかなりたちます。12月14日、スーパーを数軒回ってみました。高級バター以外は棚には並んでいません。高価なバター以外は入手困難な状態が続いています。国はどのように対処しているのでしょうか。

農林水産省のホームページの該当部分(最終更

新日 平成26年11月26日)には以下の記載がありました。

3. バター不足に対し、国はどのような対策をしたのですか。



バター不足が懸念されたことや乳業団体からの要請があったことから、国は、今年度に入り追加分として合計1万トンのバターの輸入を決定し(バター1万トンとは、昨年の生産量の約2割に相当)、11月26日までに7千トンが乳牛メーカー等に売り渡されたところです。さらに、来年3月までには3千トンが輸入される予定です。これらの輸入により、年度内に必要なバターは、確保されたものと考えています。(下線は筆者)

4. 今後のバター需給は、どのような見通しになっていますか。

来年3月までには、A3(注:上記3を指しています)のとおり1万トンのバターが輸入されることとなっています。この輸入等により26年度末のバター在庫量は、前年度末を上回る水準(前年同期比119.1%)になると予想されています。

国としては、今後も生乳生産や需給動向を注視しながら、必要に応じて適時・適切な対応をし、バターを始めとする乳製品の安定供給がなされるよう引き続き努力してまいります。(下線は筆者)

抽象的な文言が並んでいますが、輸入以外には具体的な対策は書かれていません。というより抜本的な解決策はありません。急激な円安で輸入飼料が高騰して



いるのにもかかわらず、乳価は低迷しています。酪農家の離農者は増え続けています。10年前に比べると全国の酪農家戸数は35%減、飼養頭数は17.5%減になっています。中国（人口約13億6千万人）やインド（12億4千万人）の生活水準が上がり、バター需要も急速に増え続けています。バターが不足するのは平成20年、平成23年について3度目です。消費者もマスコミも慣れてしまったのでしょうか。平成20年のときのような騒ぎにはなりません。現状を考えれば、いつまでも輸入に頼ってはいられません。世界各国で異常気象が発生しています。オーストラリアで大干ばつがあったときには、同国のバターの生産量が減ってしまい、日本向けの輸出量が減ってしまいました。

抜本的な解決策がないかぎり、今後も慢性的なバター不足が続くのは確実です。



会員の声

3年続けて富有柿を 収穫することができました

柿は「なり年」と「不なり年」が交互に来ると言われています。専門の農家さんはお礼肥など肥料設計だけではなく、摘果等も行い、隔年結果とにならないように細心の注意を払っています。

我が家では摘果の時間もないので、実るがままに任せています。それでも昨秋は富有柿がたくさん収穫できました。3年続けての収穫です。3年前、なり年だった富有柿にお礼肥として、収穫後の12月にアーゼロン・Cを施肥しました。木から1メートル離れたところに、穴を掘り（直径30cm、深さ30cm）、アーゼロン・C10kgと生ごみ堆肥と落ち葉堆肥を入れて混ぜ合わせました。木の周りにもアーゼロン・Cを5kg撒き、土をかぶせました。翌年は不なり年の年はずでしたが、そこそこ大きな実がなりました。収穫後、前回同様にお礼肥を与えました。お礼肥のおかげでしょうか。今回はなり年にあたったことでもあります。今まで一番多く、それも大きな実がなりました。味も美味しく、満足のいく出来でした。今回も十分にお礼肥を与えたので来年が楽しみです。

(G.K.)

ラッキー！

5月に「ダンスパーティ」という華やかな紫陽花の鉢植えを買いました。ピンクの花びらが見事に組み合わせられ、今にも踊りだしそうな素敵な紫陽花です。それに魅せられて、今度はブルーの花も買ってしまいました。

2つとも花が終わり、摘花して直植えにしたところ、10月に入って次々と花芽を出し、再び咲き始めました。紫陽花って2度咲きするのですか？それとも季節を勘違いして咲き始めたのでしょうか。その時の写真です。

でも11月の後半からは、寒くなって



10月に咲く紫陽花

来たせいか、つぼみのまま咲かず、硬くなったままです。すぐくびっくりしたので写真をお送りいたしました。

(アーゼロン・Cのファン)

冬に朝顔？

先日はお忙しい中、アーゼロン・Cのことで丁寧に説明していただきまして、誠にありがとうございます。何しろ初心者なので、自己流で肥料を多くあげてしまったようですね。人も植物も栄養は適量と今更ながら思いました。次は適量を心がけ頑張ります。

昨日、寒いこの時期に、それはそれは立派な朝顔が、鈴なりに咲いていて、驚きました。少し紫が入った青色でした。初対面にもかかわらず、その家の方にお聞きしました。「琉球朝顔」という植物で、9月ごろから霜が降りるころまで咲いてくれるそうです。花は2年目以降から咲き、毎年咲いてくれるそうです。寒いころ庭がさびしくなるので、ちょうどいいかなと思い、お願いしたところ、春に苗をいただき、ご指導してくださるとのことです。花友達ができてうれしいです。アーゼロン・Cは2月ごろ注文しますのでよろしく願いします。

(静岡県 K)

セアカゴケグモについて

昨年9月に東京都三鷹市でセアカゴケグモが発見され、マスコミでも大きく取り上げられました。

このクモは港湾地域やそれに隣接する地域で多く発見されており、コンテナ等に付着して国内に

侵入してきたと考えられています。1995年に大阪府で初めて発見されて以来、

徐々に生息地域を拡大し、2011年には東北、関東、北陸を含む34府県にまで生息地を広げています。たまたま東京では見つからなかっただけで、その頃にはす



セアカゴケグモ

でに生息している可能性があったと思います。都民には生息の可能性あることを促すべきだったと思います。それともパニックになるといけないのであえて警報を出さなかったのでしょうか。

環境省外来生物対策室のホームページでは「ゴケグモ(注)の国内での分布域を拡げないために、ゴケグモが生息している地域からの引っ越しや貨物の運送のときなど、荷物や車に付着して運ばないようにご注意ください」とあります。ところがどのように注意すればいいのか具体的な説明がありません。私の趣味は20歳まで昆虫採集でした。クモは昆虫ではありませんが、生息しているところが昆虫と重なるので、どの辺にいるのか見当は



ハイイロゴケグモ
この他にもいろいろな色をしたハイイロゴケグモがいます。

つきます。また、卵を産む場所やその形など生態も一般の方よりも詳しいです。「荷物や車に付着して運ばないようにご注意ください」では、昆虫やクモに関心のない人なら、どのように対処していいのかわからないでしょう。もう少し詳しく、具体的に対策を示してほしいも

のです。

(門馬義幸)

(注：国内ではセアカゴケグモとハイイロゴケグ

その2種の毒クモが確認されています。見つけたときは靴で踏みつぶすか殺虫剤で殺すかしてください。もしかまれた時は医療機関で診察してもらってください。)

高倉健さんの思い出

11月10日高倉健さんがお亡くなりになりました。連日数多くの追悼番組が放映され、俳優として、人として素晴らしい方であることが伝わってきました。みなさん、人気俳優としてはもちろんですが、「人間 高倉健」さんを尊敬されていた事がわかりました。とても残念ですが、私の認識は1980年ごろからの映画とCMで拝見した、「存在感のある俳優さん」でした。でも、あることで、俳優としても人としてもすごい方なんだと思っています。

昔のことですが、都内の大学病院に通っておりました。病院はいつも混雑していますが、ちょうどその頃、大学独自の画期的な治療法がマスコミで紹介され、いつも以上に込み合っていました。少し話は脱線しますが、確か腰痛の体操で、整形外科は廊下にも人があふれていて、わざわざ遠回りして院内を歩いた記憶があります。ただその体操は整形外科ではなく、リハビリ科で行われていて、そこは別棟で、とても閑散としていました。

話を元に戻しましょう。複数の科の診察と検査を終えた私は、とても疲れていました。人も多く、何度もぶつかってフラフラの状態でした。ようやく長椅子の空きを見つけ、座り込むとほっとして動けなくなっていました。しばらくして何かおかしいなと思い、周りを見ますと、こんな混雑して

いるのに、私の前の長椅子に男性が一人、2番目の長椅子に私が一人、3番目の長椅子には誰も座っていません。他の長椅子には大勢の方々が窮屈そうに座っています。病院ですから患者さんは座って体を休めたいはずなのに、三つの長椅子にたった二人きりなのです。周りをきょろきょろしていた私は、前の男性を見るとそのまま目を離せなくなりました。帽子を深めに被り、ジャケットを着こんだ男性は背筋を伸ばし、前を向いていました。その背中から、静寂で、力強いものを感じました。生まれて初めてオーラ、それも、とてつもなく強いオーラを感じたのです。とても近づけない雰囲気でしたが、意を決して座る位置をずらし（同じ長椅子になんて、とんでもないことです）、横顔を拝見すると、「おお！高倉健だ！」。昔の映画でしか知らない私が驚き、感動しました。私がパニックになっているところへ、師長さんがその方にそっと近づき、「高倉様、今お呼びしますので、もう少しお待ちください」とささやいたのですが、高倉健さんは師長さんの顔を見ながら、困った眼をして「自分は大丈夫ですから。みなさんと同じで」とあの声で答えたのです。ほんの短い時間でしたが、本当に映画のワンシーンでした。一人座っている凜とした姿、かわいいと思ってしまった困った眼、特別扱いを遠慮されたこと、すべてに今まで感じたことがない「存在感」がありました。

病院には著名な方がたくさんいらっしゃいます。みなさん独自の雰囲気を感じましたが、でも高倉健さんは「特別な存在」でした。あのときの衝撃は一生忘れられないものです。

ご冥福をお祈りいたします。 (井出聖美)



2014年のあゆみ

1月

- 『肥料農産新報』（平成26年1月5日新春特集号 第2439号）に門馬義幸専務の「国際化に必要な教育とは何か」が掲載されました。
- 公益財団法人日本発明振興協会発行の『創立60周年記念誌』に門馬義芳社長の「こども発明教室と私」が掲載されました。



2月

- 社長が交代しました。代表取締役の門馬義芳が退任し、相談役になり、後任社長に専務取締役の門馬義幸が就任いたしました。『肥料農産新報』（2月15日号）に社長交代のニュースが掲載されました。

5月

- NPO 法人生ごみリサイクル全国ネットワーク発行の『生ごみネット』（No. 37 2014年5月）に「世界遺産合掌作り集落と微生物」（門馬義幸）が掲載されました。微生物を利用した硝石の製造について書かれています。
- 門馬義芳相談役に「農林水産省生産局長感謝状」が授与されました。全国土壌改良資材協議会創立30周年記念式典（5月20日）にて、同協議会の副会長を26年に亘って務め、地力増進対策の発展・強化に貢献したことにより、感謝状が授与されました。
- 『全国土壌改良資材協議会創立30周年記念誌』（5月20日発行）に「光陰矢のごとし」（門馬義芳）が掲載されました。

8月

- 『肥料農産新報』（平成26年8月5日・15日合併号 第2459号）に門馬義幸社長の「漠然とした不安」が掲載されました。
- 韓国で発行されている『商業農経営』（財団法人国際農業開発院 第319号 2014年8月号）にて大村能正氏（韓国ライフ株式会社社長）のインタビューと日本ライフの(株)の微生物資材（アーゼロン・C、アーゼロンゆうき、粒状ネオトーマス有機）が紹介されました。

11月

- NPO 法人生ごみリサイクル全国ネットワーク発行の『生ごみネット』（No. 38 2014年11月）に「連作障害について」（門馬義幸）が掲載されました。



編集後記

毎年、毎年時間がたつのが早くなるように感じます。昔は「人生50年」と言われていましたが、今では80年です。健康の大切さも実感するようになりました。これからは、一日一日を大切に過ごしたいと思います。

(Y. M.)

去年は、私にとって大きな飛躍？の年で、2つの分野でデビューしました。一つはガーデンコーディネータ、もう一つはダンスです。久々の緊張感と達成感！（周りの人がいい迷惑？）これからもいろいろと挑戦していきます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

(Y. O.)

面白いものを見つけました。歌舞伎の隈取があるフェイスパックです。従来は白だけですが、意外と迫力があります。日本の文化の一つとして、外国の方のお土産にも人気があるそうです。これからもいろいろなお形で「日本発」を紹介されると思います。

(K. I.)



意を決して